



「ああ、今日も一日が過ぎていく」。そんな思いで夕日を眺めることが何度となくあるが、なぜか言い知れぬさみしいが込み上げてくるものだ。それはたぶん残り少ない自分の人生と重ね合せて、少し感傷的になっていたからなのだろう。西方浄土。その美しさを眺めていると確かにその果てには安らかな世界があるように思えてきたりもするものだ。

「西方浄土」という表現は11世紀以降、浄土教の流布に伴って一般化し、平安朝末から中世には、落日に向かって西方浄土を観想する日想観が流行したのだと伝えられている。阿弥陀さまは、真実を見る眼がない凡夫の私たちのために浄土を「西方浄土」というと方便によってお示しになられたものであろう。いずれにせよ一心に浄土へ生まれたいと願う思いは大切に生きていきたいものである。それは同時に阿弥陀如来のすべての者を平等に救いたいという願いを信じ、応えていく歩みでもあるのだろう。ただ念仏して。

東山浄苑に参詣して

H・K

私の両親のお骨は、東山浄苑に納骨されており、母の三十七回忌の法要を今年勤めさせていただきます。母も高齢となり、この先の事を考えると何回行けるかもわかりませんので、今年は何としても行ってみたいと思いましたが、しかし最近、テレビや新聞などで報道があるように高齢者による事故が多発し、尊い命が失われていくニュースを見ていると車で出かけることへの不安がつのり、なかなか決断が出来ませんでした。弟夫婦ともよく相談して、行くことに決めました。

当日の朝には出発する前にお仏壇でお経をあげて、お墓にもお参りをしてから出発いたしました。道中は慎重に運転し、心配しながらも目的地に無事到着いたしました。

本堂に入るところには久しぶりに出会う阿弥陀様が私たちを出迎えてくださり、安堵の思いとその有り難さに思わず両手を合わせました。

その後は両親の遺骨が安置してある二階に行き、お花を供え正信偈を読み終わると、なぜか肩の荷が下りたような気がして、みな涙を流してしまいました。ここに来ずにはおれなかつた思いが叶えられた喜びの涙だったと思います。本当に仏様のおかげであることを固く信じ、感謝の思いでいっぱいです。

今や人生は百歳の時代になりました。私もこの先何年生きられるかわかりませんが、命ある限りお仏壇に手を合わせ、日々喜びに満ち溢れる人生を送っていききたいと思っております。

秋季永代経のご案内



九月二十三日(月)

午前 十時半

法話・住職

お斎あり

午後 十二時

法話・若院

「亡き人を偲びつつ、如来の
み教えにあいたてまつる」
この思いを胸に、亡き人か
らの願いを確かに受け取り
ましょう。ご参詣お待ちい
たしております。

七月の学習会

ーこんなことを学びましたー

○若院法話・七高僧について 天親菩薩その2

○天親菩薩DVD鑑賞

○北陸地方に伝わる民謡 数え歌を味わう

『この歌は古くから能登地方の浄土真宗のお説教の中に語り伝えられてきたもので、かなり各地に伝えられているようです。例えば加賀の白山麓の地域などでは、民謡となって人々がいろいろな機会に歌っているといえます、生活に根付いた仏法がにじみ出ているように思えます。』

その中のいくつかを紹介します

十番まである歌の

一二には不定のいのちをもちながらよもやよもやで口を送る

今宵も知れぬいのちはほまにいままで知らなん

生は必然、死は偶然、そんな風な気持ちで生きています。

ところが事実は逆で、死は必然であり、生は偶然であるということです。

そういう錯覚を私たちは生きていくのです。

八つは役にも立たぬ雑行(むじぎやう)雑修(むじゆ)を捨てもせず
親を泣かせては泣かすをほごにままば、知らなんだ

私たちは自分の分別はからの満足だけを追求して生きています。あるいは仏法も聞いています。だから、はからいを捨て、言われても雑行(むじぎやう)を捨て、言われても捨てしないで、仏に限りなく背き続けられている自分だということ、ほんに今まで知らなんだということ、親様 阿弥陀様(背き続け泣かせていたことを、今気付かされたこと)。

変更

八月の学習会は休みの予定でしたが、お磨きとして行く予定です。

第二土曜七時より 有志の方々の協力を願っています。

お経を習いましょう

今年も光受寺が墨俣の当番会場になりました。七月二十五(二十六日)上宿は西来寺、下宿は蓮泉寺で毎年行われている行事です。

子供大会は二十七日(廿七)に蓮泉寺で行われました。

今では珍しい紙芝居を観てもらいました。

ゆつたりとした

時間が流れる中、

一枚一枚の絵と生の

語りから子供たちの

想像力も豊かに広がって

たことでした。

この日は台風接近で大雨になりましたが、多くの子供たちが参加してくれ有難いことでした。



蓮泉寺本堂

信州を旅して

ともかくもあなた任せの

年の暮れ 一茶 五七五

他力の信心を詠んだ句

7月末に信州信濃の「茶記念館」と一茶を顕彰して建てられたお堂「俳諧寺」を訪ね、この句に出会いました。 ※あなた あみださま(一茶にも流れていた真宗の心)

隔年で光受寺を会場として法話会を開いていただいております。

今年は十八名の方々に越しいただけました。

城南クラブでの法話

テーマは「眞実を見つめて生きる」とさせていいただき、私たちの口頃の生き方を見つめ直してみました。

六曜 大安、吉日等や、迷信に振り回されて生きている私たちの姿を浮き彫りにし、まことに生きることの大事さを改めて見つめ直していただけたかと思っております。

今年もありがとうございました。



8月の予定

十五日 墨俣戦没者慰霊祭

九時より

お勤め法話があります。

八月の喫茶はお休みです。

新聞原稿募集中！